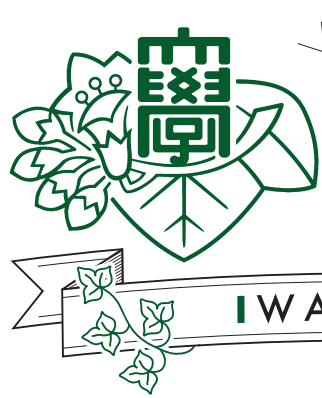




CAMPUS LIFE - Club Activities -

岩手大学クラブ活動紹介

01 オリエンテーリング部



地図とコンパスを手に自然の中を駆け巡る！
オリエンテーリング部取材しました。

Q1. オリエンテーリング部はどのようなサークルですか？

オリエンテーリングは、地図とコンパスを使いながら自然の中に設置されたチェックポイントを巡り、ゴールまでのタイムを競う競技です。競技力の向上を目指して練習するだけでなく、自然の中で仲間と楽しく活動できる点も大きな特徴です。また、部員のほとんどが大学から競技を始めているため、未経験でも安心して参加し、楽しむことができます。



Q2. 普段はどのような活動をしていますか？

普段は週に数回、練習を行っています。主な練習内容は地図読みで、ルート選択の技術を磨いています。また、休日には森林公園や大学の演習林で実践的な練習を行ったり、各地で開催される大会にも参加しています。競技活動とは別に部内イベントもあり、部員同士で交流する機会が多いため、和気あいあいとした雰囲気です。



Q3. 雫石さんが参加したきっかけを教えてください。

高校までの部活動とは違う、新しいことを体験できるサークルに入りたいと考えていました。そんな中、大学入学後のサークルオリエンテーションで「飛び込め、非日常。」というフレーズと、森を駆け巡る写真が掲載されたビラが配られていました。そのフレーズに心を奪われ、さらに先輩方からさまざまな話を聞いて入部を決めました。

Q4. オリエンテーリング部の魅力を教えてください。

自然の中を駆け巡りながら、自分で考えて最適なルートを選ぶところが大きな魅力です。体力だけでなく判断力も必要なので、毎回違った面白さがあります。そのため、必ずしも体力がある人や足が速い人が勝てるわけではありません。最適なルートを走ることで、足が速くなくても勝てる可能性がある点もこの競技の魅力の一つです。

Q5. 活動のPRをお願いします！

オリエンテーリングは大学から始める人がほとんどなので、初心者でも全く問題ありません。自然が好きな人、体を動かしたい人、新しいことに挑戦してみたい人にぴったりの部活です。興味がある方は、毎年、岩手大学と岩手県立大学のオリエンテーリング部が主催する大会もあるので、ぜひ参加してみてください！



取材に協力してくれた方

農学部 3年
雫石 卓さん（宮城県仙台第三高校出身）

02 山田線・花輪線つながり応援隊



鉄道沿線に学生のアイデアでにぎわいを！
地域と鉄道をつなぐ山田線・花輪線つながり応援隊取材しました。

Q1. 山田線・花輪線つながり応援隊はどのような団体ですか？

岩手県内を走るJR山田線・花輪線を生かし、沿線地域の活性化を目的に活動している同好会で、2024年12月に設立されました。山田線は盛岡市と宮古市を、花輪線は八幡平市と秋田県鹿角市・大館市を結ぶ鉄道路線です。私たちは、駅や地域のイベントを通して、沿線地域の魅力を発信しています。「鉄道好きのサークルなの？」と思うかもしれませんが、鉄道に詳しいメンバーは数名です。地域づくりやボランティア、子どもたちとの交流に興味があるメンバーが集まり、現在の部員は11人と少人数ですが、仲良く楽しく活動しています。



Q2. 普段はどのような活動をしていますか？

地域住民や子どもたちと一緒に、無人駅の待合室の飾りつけや窓へのイベントなどを行うイベントを、行政や企業、地域の方々と話し合いながら企画しています。また、地域のお祭りでの子ども縁日や雪まつり、小学校の学童保育のボランティアにも参加しています。さらに、観光列車への乗車や地域のお祭りへの参加、観光スポットの訪問などを通して、沿線地域の魅力を自分たち自身も楽しみながら活動しています。

Q3. 山田線・花輪線つながり応援隊の魅力を教えてください。

この同好会の魅力は、自分たちで一から考えたアイデアを、地域みなさんと一緒にイベントとして形にできることです。行政や企業、地域の方々にも協力していただきながら、駅でのイベントや地域を盛り上げる企画を実施しています。昨年度に企画した、山田線の陸中川井駅の飾りつけイベントでは、地域にお住まいの約190名のうち36名の方が参加してくださいました。実際にイベントを開催すると、地域の方々から感謝の言葉をいただくことも多く、自分たちの活動が地域につながっていることを実感できます。地域活性化を身近に体験できることが、この同好会ならではの面白さです。



Q4. 活動のPRをお願いします。

私たちは、鉄道と地域をつなぎ、沿線に新たなにぎわいを生み出す活動を行っています。鉄道に詳しくなくても大歓迎です。地域づくりやボランティア、子どもたちとの交流に興味がある方におすすめです。私たちと一緒に、山田線・花輪線の沿線地域を盛り上げてみませんか？



取材に協力してくれた方

農学部 3年
松本 太一さん（春日部共栄高校出身）

サークル紹介ページ：

<https://www.iwate-u.ac.jp/campus/activity/club.html>



新学長インタビュー

2026年4月、岩手大学の新学長として山本欣郎学長が就任しました。本学は新学長のもと、これまでの歴史や伝統を受け継ぎながら、新たな大学づくりを進めています。今回は山本学長に、本学の魅力や今後のビジョン、学生へのメッセージなどについてお話を伺いました。



新役員・副学長の集合写真

Interview

Q1 これからの岩手大学を、どのような大学にしていきたいとお考えですか。

岩手大学は、前身校までさかのぼると100年以上、新制大学になってからも77年という長い歴史を持っています。これまで多くの卒業生を社会に送り出し、しっかりと存在感を示してきました。一方で、昨年度には獣医学部が加わり5学部体制となるなど、今も新しい組織づくりや教育の改善に取り組んでいます。これまでの歴史を大切にしながら、地域はもちろん、日本、さらには世界で活躍できる人材を育てる大学にしていきたいと考えています。

Q2 学長が考える岩手大学の魅力や強みについて教えてください。

岩手県は自然が豊かで気候も穏やかであり、さらに岩手大学のキャンパスは広々としているため、学習環境として非常に恵まれていると感じています。余計なノイズのない環境の中で、自由な発想で勉強や研究に取り組める点は大きな魅力です。

また、すべての学部が同じキャンパスに集まっているため、異なる専門や考え方を持つ教員や学生と気軽に意見交換ができ、共同でさまざまな活動に取り組めることも本学の強みだと思います。さらに、地域の気質もあってか、大学全体の雰囲気は自由でゆったりしており、サークル活動や社会活動にもじっくり取り組める環境ではないでしょうか。

Q3 学生には、学生生活の中でどのようなことに挑戦してほしいですか。また、身につけてほしい力がありますか。

まずは、自分が所属する学部・学科・コースなどで専門知識をしっかり高めてほしいと思います。その一方で、課題発見力や問題解

決力は、将来どの分野に進んでも重要になる力ですので、ぜひ意識して身につけてください。また、生成AIをはじめとする新しい技術が急速に発展していますが、それらに振り回されることのないリテラシーを身につけることも大切です。そして最も大切なことは、少なくとも学生時代には自分で限界を決めず、さまざまなことに積極的に挑戦することです。たとえ失敗したとしても、その経験はきっと将来の大きな財産になります。

Q4 趣味や休日の過ごし方について教えてください。

最近の休日は、妻とドライブに出かけることが多くなりました。岩手県は広く、三陸の海から奥羽山脈、北上山地の山々まで、どこへ行っても飽きることのない景色が広がっています。四季折々の自然は美しく、心が癒されますし、山道では時折ニホンジカやニホンカモシカといった野生動物に出会えるのも楽しみのひとつです。



ドライブで訪れた荒川高原(岩手県遠野市)



Q5 これから進学を考える高校生に向けて、メッセージをお願いします。

大学では、高校までとは比べものにならないほど多くのことを学び、さまざまな人に出会うことになります。授業や実習を通して専門知識を身につけるのはもちろん、自分とは異なる価値観を持つ先生や友人と出会うことも、大きな経験になります。大学時代に築いた人間関係や、そこで培った考え方は、何にも代えがたい大切な財産になるはずです。ぜひ岩手大学で、たくさんの人と出会いながら、楽しく充実した大学生活を送ってください。

学長の日々の公務や
学内の様子を
発信しています。
ぜひご覧ください。

山本学長X



@iwateu_gakucho

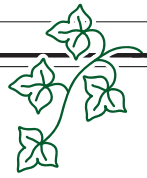
略歴

平成2年3月 帯広畜産大学獣医学部獣医学科 卒業
平成7年9月 獣医学博士(岐阜大学)
平成14年4月 岩手大学農学部 助教授
平成18年10月 岩手大学農学部 教授
令和2年4月 岩手大学副学長(情報統括・図書館担当)
令和5年4月 岩手大学副学長(情報統括・広報・図書館担当)
令和6年4月 岩手大学理事(教育・学生担当)・副学長
令和8年4月 岩手大学学長



学長 山本 欣郎

出身：愛知県岡崎市
専門：獣医解剖学、組織学



研究紹介

Research
Introduction

未来を創る知の探究者たち



子どもたちの「心が動く」授業をつくるために

私の主な研究領域は、身体が思うように動かしにくい「肢体不自由」のある子どもに対する教育です。特別支援教育において、人間が生まれ育っていく一般を知ることは大切なことです。我々は、生まれた瞬間から、それまでいた母親のお腹の中



教材を用いたやりとりを通して、子どもが今何をどう理解しているかを捉えます

とは異なる重力環境下で、人や物との様々な関わりを通して人の手によって育てられていきます。思うように身体が動かせないことは、自分で自分の身体を支え手足を動かして、人や物へ関わっていくこと、またこれを通した学びを難しくすることにつながります。その子どもの今の姿は「障がいがあるから仕方がない」のか「障がいがあることによって十分に学びきれなかった」のか。特別支援教育に携わる教師には、子どもの障がいに対する配慮ができることのみでなく、その子どもの表面的な動きでもなく、子どもの頭にある学びをみつめられる力が必要です。そのような先生の卵を育てながら、障がいのある子どもに対する指導領域である「自立活動」と各教科の関連や指導法、これらを編成する教育課程について研究しています。



教育学部 / 特別支援教育科 准教授

武部 綾子

Ayako Takebe

生物の光磁気感知メカニズム

生物が遭遇する多様な環境因子は遺伝子の発現や健康に影響を与え、逆に、ヒトの産業活動などは外界である環境に影響を与えています。近年、このような生物と環境の双方向的な関係が注目されるようになってきました。地磁気（微弱磁場）も健康に深く関わる環境要因であり、近年、渡り鳥などの生体磁気コンパスとして、クリプトクロムとよばれる光受容体タンパク質が働き、地磁気の方角を感知しているという仮説が有力視されています。研究室では、分子化学を基盤として、このような生物の光磁気感知メカニズムについて研究しています。

最近、私たちは、DNAと（生体内に存在する）フラビン色素間で、ブルーライト照射後にラジカル対が生成し（図1）、マイクロ秒の寿命（磁気感受に必要な時間を十分満たしている）を持つこと、室

温でも弱磁場（生活環境レベルで存在する程度の弱磁場）の影響を顕著に受けることを実験で検証できました。このような発見は、生物がもつ感覚の理解、生活環境下における光や磁場が健康や老化に与える影響の解明などに繋がると期待しています。

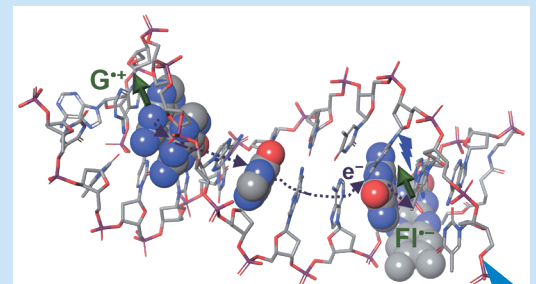


図1 本研究で光磁気感知について検証したDNAモデル (Y. Oka et al., Commun. Chem. 2025, 8, 203.)

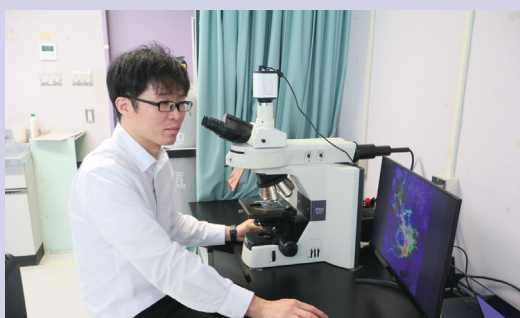
理工学部 / 理工学科 / 化学コース 准教授

岡 芳美

Yoshimi Oka

低酸素を感じる頸動脈小体のしくみを探る

動物の体は内外で生じる変化（刺激）を感じることで、その刺激に適した反応を起こします。そのためには、刺激を感知する感覚受容器が必要です。私は、様々な顕微鏡を用いて感覚受容器の仕組みを解き明かす研究を行っています。特に、



蛍光標識された化学受容細胞を観察する様子

頸動脈小体という「血液中の酸素の変化を感じ取るセンサー」の働きを詳しく調べています。頸動脈小体には血中の酸素が低下する低酸素状態を感じとる化学受容細胞が存在し、その情報を感覚神経へ伝えることで普段の呼吸を調節しています。この頸動脈小体の機能変化が、高山病や睡眠時無呼吸症候群などの病気と深く関わります。頸動脈小体がどのように低酸素の情報を神経へ伝えるのか、また病気のとときにどのような変化が起こるのかを、細胞や神経の形や発現する分子の変化を解析して詳しく調べています。これらの研究は、呼吸の仕組みや呼吸循環器疾患の理解を深めるだけでなく、将来的には治療法の開発にもつながる可能性があります。



獣医学部 / 共同獣医学科 准教授

横山 拓矢

Takuya Yokoyama

センパイ紹介
Alumni Interview

PROFILE

キャリアアドバイザー

ちだ かりん
千田 彩梨 さん

岩手県盛岡市生まれ
2025 年 3 月 人文社会科学部 人間文化課程 卒業
レバレジーズ株式会社



Q① 印象に残っている学生時代の思い出を教えてください。

やはり大学生と言えば長期休みですね。社会人になると、自由に時間を使える長期の休みは少なくなるので、さまざまなことに挑戦できる魅力的な期間だと思います。私は、約1万2千人を集客する地元の花火イベントで3年間実行委員として活動したほか、学芸員資格取得に向けて夏期講座や冬期講座に友人と勤しんだり、3つほど長期インターンを経験したりと、充実した学生生活を送ることができました。学内外の活動の中で、いろいろな方々との繋がりを持つことができ、とても濃い時間でした。特に、地元で活躍する方々のお話を聞いたり、直接お会いしたりして、自分にはないものを吸収できる機会が多くあったことは、地元愛の強い私にとって素敵な環境でした。

Q② 現在の仕事を選んだきっかけは何ですか？

当時お世話になっていた就活エージェントの方からの紹介でこの会社を知り、早い段階で説明会に参加しました。そこで、若手の圧倒的な成長スピードと影響力の大きさに惹かれ、レバレジーズで働く「キラキラOL」に憧れを持ちました(笑)。全37社の面接を受けましたが、当初から変わらず第一志望でした。
もともとは小学生の頃から「公務員として地元のために働き、地域貢献がしたい」と考えていました。しかし、外の世界を知らないままでは、自分が提供

できる価値に限界があると感じ、好きだからこそ一度岩手県を出て成長し、自分の可能性を広げてから地元に戻り、より大きな影響を与えたいと考え、東京での就職を決断しました。

Q③ 仕事のやりがいや今後の目標を教えてください。

キャリアを積み上げ、最短でマネジメントスキルを高めていきたいと考えています。私は個人営業を担当しており、関東を中心に活躍するエンジニアの方々に、キャリア相談やIT企業の提案を行っています。一人ひとりに徹底的に向き合い、どこまでやるかも含めて裁量が大きい仕事です。自分が最大限に向き合えば、無形商材は終わりのない仕事だからこそ、必ず成果は紐づいてきます。お客様から「千田さんに担当いただいて本当に良かったです」と直接お言葉をいただく機会も多く、大きなやりがいを感じます。また、1年目から年次に関係なく、良い行動や実績が認めもらえる環境も、日々のやりがいにつながっています。

Q④ 岩大生へメッセージをお願いします！

「20代で頑張れない人は、30代から急には頑張れない」という言葉があるくらい、私を含め20代は人生を大きく左右する大事な時期です。そのときの経験が将来どのように生きるかはすぐには分かりませんし、時には成果に直結しない努力も少なくないと思います。しかし、成果に直結しなくても絶対にその取り組みは無駄にはならないので、「どんな人になりたいか」、あるいは「どんな人にはなりたくないか」をふんわり考えながら、まずは目の前の何かに全力で取り組んでほしいです。何にでも挑戦できることこそ、大学生にとっての本当の「人生の夏休み」だと思います。
また、チャレンジして失うものや大きな失敗は、実際にはほとんどありません。時間は使いますが、新しい発見や気づきがあります。スキルアップや成長だけでなく、目の前のチャンスを逃さない人になれるかどうか、自分を磨いたり、価値観を広げ、面白い大人へとつながっていくと思います。日々を楽しみながら、充実した学生生活を送ってください！

TOPICS トピックス

第69回盛岡・つなぎ間ロードレース大会を実施しました。

2026年5月16日(土)、第69回盛岡・つなぎ間ロードレース大会を実施しました。太田橋グラウンドをスタートし、御所湖畔の美しい景色を眺めながら、ゴールのつなぎ温泉ホテル紫苑までの約12kmを走るコースです。学生・教職員あわせて146名が参加し、全員が無事完走しました。ゴール後は温泉で疲れを癒し、笑顔で大会を締めくくりました。



岩手大学のWebメディア「Pebble Log (ペブログ)」がスタート

Pebble Logでは、岩手大学ならではのキラッと輝く小粒な情報を発信しています。学生の活動や研究、イベントなど、これまで紹介しきれなかった岩手大学の魅力をお届けします。



Pebble Logは
こちらから



Information

岩手大学公式ソーシャルメディア

岩手大学ではさまざまな情報をソーシャルメディアで発信しています。ぜひチェックしてください。

岩手大学公式 X
@Iwate_Univ_PR



山本学長 X
@iwateu_gakucho



岩手大学公式
YouTubeチャンネル



岩手大学公式
Instagram
@iwate_univ_pr



岩手大学のソーシャルメディア
アカウント一覧



プッシュ通知で岩手大学の最新情報を
逃さずキャッチ！

岩手大学のイベントや受験生向けのお知らせなどをスマホアプリのプッシュ通知で受け取れるサービスをはじめました。高校生、卒業生、地域の方など、アプリを登録して、岩手大学の活動をぜひチェックしてください。



登録は
こちらから



岩手大学教員によるミニ講義を公開中！

岩手大学教員のわくわくする学問を「夢ナビ」のミニ動画で紹介しています。自分の興味・関心につながる学問への可能性をぜひ広げてください。



岩手大学 80 周年記念事業のご案内

岩手大学は2029年に創立80周年を迎えます。2024年7月、創立80周年に向けた8つのプロジェクトがスタートしました。プロジェクトの詳細は記念サイトに掲載しています。創立80周年記念事業へのご寄附に関するご質問は岩手大学基金室まで、お気軽にお問い合わせください。



記念サイトは
こちらから



岩手大学広報誌 Vol.58

2026年8月 岩手大学総務広報課発行
〒020-8550 盛岡市上田三丁目18-8
E-mail:kkoho@iwate-u.ac.jp https://www.iwate-u.ac.jp/
本誌へのご意見・ご感想をお待ちしております。